

2025年7月のてがたんは当日受付にて実施しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回のとがたんは8月9日(土)で、テーマは「拾ってみよう!鳥の羽」です。ぜひご参加ください。市民スタッフの皆さま、次回の下見は8月3日(日)です。

## 7月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道→ミ二手賀沼→鳥の博物館
- 観察日時/天気：2025年7月12日(土) 10:00~12:00 /曇り
- 参加人数：20名(大人11名、子ども9名)
- 市民スタッフ：4名(石原直子、北村章子、弘實さと子、古澤紀元)
- 鳥博職員：1名(脇水徳之)

## — 観察した生き物の記録 —

下見で見られたものも含む。

【鳥類】キジ科：キジ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、コサギ/カモメ科：コアジサシ/タカ科：トビ/カワセミ科：カワセミ/キツツキ科：コゲラ/カラス科：ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/アトリ科：カワラヒワ(声)/ホオジロ科：ホオジロ  
家禽や外来種：ドバト(ハト科)

【爬虫類】ニホンカナヘビ/ヤマカガシ/ミシシippアカミミガメ

【両生類】ヒガシニホンアマガエル/ヌマガエル/ウシガエル(オタマジャクシ)

【軟体動物】オナジマイマイ

【クモ類】コガネグモ、ナガコガネグモ、アシナガグモ、コクサグモ、カバキコマチグモ(巣)

【昆虫】トンボ目：シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、ウチワヤンマ、ギンヤンマ、アオモンイトトンボ、アジイトトンボ、ウスバキトンボ、チョウトンボ/バッタ目：ケラ、オンブバッタ、ショウリョウバッタ、キンヒバリ、マダラスズ/カマキリ目：オオカマキリ/カメムシ目：アメンボ、キマダラカメムシ(幼虫・成虫)、アブラゼミ、ニイニイゼミ/コウチュウ目：ドウガネツヤハムシ、ヤノナミガタチビタムシ/チョウ目：モンシロチョウ、モンキチョウ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ(幼虫・成虫)、ナガサキアゲハ、ツマグロヒョウモン、アサマイチモンジ、アカボシゴマダラ、ヤマトシジミ、フタツメオオシロヒメシャク、オオスカシバ(幼虫)、アオイラガ(幼虫)、ヒロヘリアオイラガ(幼虫)/ハチ目：キアシナガバチ、ミカドトックリバチ、オオモンククロクモバチ

【草の花】ヒユ科：ナガエツルノゲイトウ/タデ科：ギシギシ/オトギリソウ科：キンシバイ/マメ科：アカツメクサ、シロツメクサ/アカバナ科：ユウゲショウ、オオバナミズキンバイ/ブドウ科：ヤブカラシ/カタバミ科：オッタチカタバミ/ナス科：ワルナスビ/サギゴケ科：ムラサキサギゴケ/オオバコ科：オオバコ/キキョウ科：ミゾカクシ/キク科：ヒメジョオン、ブタナ/ツユクサ科：ツユクサ、ムラサキツユクサ/カヤツリグサ科：ヤマイ/ガマ科：ヒメガマ/アヤメ科：オオニワゼキショウ/ラン科：ネジバナ

【木の花】アオイ科：ムクゲ/アジサイ科：アジサイ/クマツヅラ科：ボタンクサギ/モクセイ科：トウネズミモチ/アカネ科：クチナシ

# 2025年7月の観察アルバム



今回のテーマは「ヘビ巳(み)つけ」でした。  
 当日は気温が低く曇りで過ごしやすい天気でした。野外観察は1時間程と短い時間でしたが、目的のヘビや、ケラ、アブラゼミの羽化の様子などをみることができました。野外観察の後は、博物館の中で実際のヘビの食事シーンや他の爬虫類との体の違いについてご紹介しました。



今月の案内人  
 脇水 徳之



① 沼の水面でみかけたアメンボ。交尾したオスがメスを守っている様子。



② 広場の茂みに隠れていたヤマカガシ。落ち葉の中に素早く潜っていった。

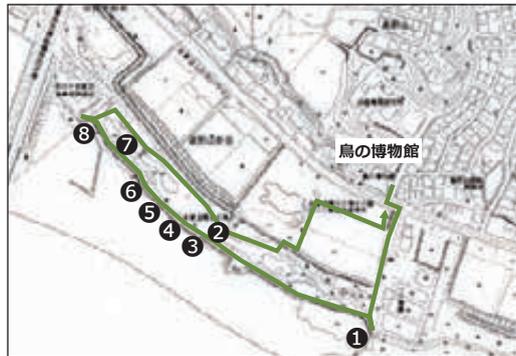


③ 遊歩道でみかけたヒガシニホンアマガエル。ヤマカガシが好んで捕食する。



④ バッタの仲間を捕まえて糸でぐるぐる巻きにしていたアシナガグモ。

## 歩いたルートと観察した生き物



⑤ 沼の水面に尾をつけて産卵していたウチヤンマのメス。



⑥ 植え込みの中で羽化して羽根を伸ばしていたアブラゼミ。



⑦ ミニ手賀沼を泳いでいたケラ。地面から出た姿がみられるのは珍しい。



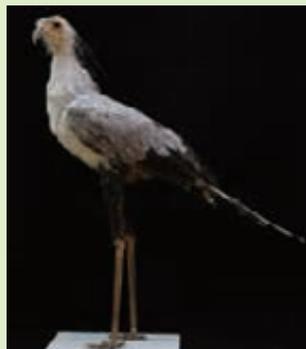
⑧ 植え込みの下にいたカナヘビ。「ヘビ」という名前がつくが、トカゲの仲間。

## 今月の鳥 ヘビを食べる鳥たち

ヘビと鳥は、生態系の中で「食べる・食べられる」関係にあります。

ヘビを食べる鳥の代表例であるヘビクイワシは、アフリカ大陸のサバンナや草原に生息し、長い足で踏みつけてヘビを弱らせて捕食をします。

日本では、小型の鳥や巣内雛がヘビに好んで捕食され、逆に猛禽類やカラス、キジやアカショウビンなどの貴重なタンパク源としてヘビは捕食されています(田中・森、2001)。猛禽類やカラスは、捕まえたヘビを上空から落として弱らせることがあります。



ヘビクイワシの剥製



カラスに捕食されたと思われるヤマカガシの死体